



新緑のさわやかな季節になりました。まだ雇用面など心配はありますが、厳しかった景気もようやく回復の兆しが見え始め諏訪大社式年造営御柱大祭とともに地域の元気が芽生えてきたように思います。その御柱祭はお天気にも恵まれ、一九二万人という人出を記録し、賑やかに上社、下社とも立派な十六本の御柱が建立されましたことを共に祝い申し上げたいと思います。一つ一つの小さな力の集まりが大きな結果を作ること政治の分野でこそ大いに見習いたいものです。

さて、第十二回「ゆかりんの県政報告会」は御柱祭の関係から開催日が一ヶ月以上ずれましたが、二十二年度当初予算の審議の二月定例会をはじめ、各種活動をご報告致します。本年度も課題の多い政治の動向や世界情勢を視野に入れながら、地域の活力を回復するため、引き続き皆さんと共に頑張りたいと思っております。

丁度この夏は参議院議員選挙に続き、知事選挙など重要な選択を控えています。一票の価値の大きさを改めて意識しつつ、私たちの長野県、諏訪地域を皆で造り上げていくのだ、という気持ちで多くの皆さんが御柱祭のように参加されることを大いに期待いたします。

私の任期も余すところ一年を切りましたが、最後まで手を抜くことなく課題に取り組みたいと思っております。引き続きご支援ご指導のほど、宜しくお願い申し上げます。

長野県議会
 創志会諏訪支部
 長野県議会議員
金子ゆかり

長野県議会《2月定例会》報告

22年度当初予算審議は一般会計8615億円3841万円、特別会計2424億1523万5千円、企業特別会計129億1509万3千円を可決しました。政権交替した民主党政権の公約による家計支援、消費拡大を重視した予算になりました。予断を許さない経済情勢を視野に、経済・雇用対策を充実し、対前年度3.5%増の一般予算になっています。本年度の税収は、法人税が前年の15%減を見込むなど税収の大幅な減少が見込まれますが、基金事業を活用して、病院など身近な社会資本整備に前年を154億円上回る投資となっています。

世界同時不況により中期総合計画の進捗状況は厳しい面もありますが、職員の削減、民間委託の活用、県立5病院の独立行政法人化、社会部と衛生部の統合（健康福祉部）などの行政改革をすすめ、県民の暮らしの安定を軸に苦心した結果の予算と受け止めました。

《文教企業委員長報告をしました》



不登校対策の新規事業「笑顔で登校支援事業」、高校再編、特別支援教育、電気事業、水道事業の民営化について等、22年度予算案はじめ、県立武道館建設の請願の採択など文教企業委員会の審査の経過と結果を報告しました。



《一般質問に立ちました》

- 人口減少時代に入り、日本の生産年齢人口は20年間で1200万人の減少が見込まれる中、労働形態も変化し、非正社員は雇用者の三分之一を占めている現状にある。製造業に特化している長野県の現状と、社会保障やワークシェアリング、ワーキングバランスに対する県の考え方を問いました。
- 働き方の変化に伴い、育児、保育、教育、介護など家庭部門と社会部門とが役割分担をする過程がうまく機能せず、虐待、ひきこもり、少年犯罪、学力低下、個食などの課題が山積していると思われるが、それらの現状と子どもに接する大人のかかわり方への県の施策と取り組む決意を質しました。
- 中心市街地において、高齢化が進んでいる現状を諏訪市の駅周辺の高齢化率を例に示し、税制面からの政策の可能性について総務部長に、都市計画におけるコンパクトシティの考え方について知事等に問いました。

- 商工労働部長答弁**「県内非正規労働者は34.1%と増加傾向。生活資金給付を受けながら職業訓練を受けられる緊急人材育成支援事業を創設する。また新たに仕事と家庭両立支援アドバイザーを配置し、国のセーフティネット制度の周知や各種相談を充実していく。」
- 県警本部長答弁**「少年犯罪はここ2年増加。21年の検挙、補導された非行少年は万引きを中心に2010人。前年より270人増。また強盗など凶悪犯による検挙少年も増加している。」
- 教育長答弁**「不登校の直接のきっかけが家庭に起因する割合は小学校39.2%、中学校20.7%、高校13.3%。スクールソーシャルワーカーによる働きかけや行政と連携の支援が重要。」
- 企画部長答弁**「青少年を取り巻く環境の悪化に加え、社会的要因にからむ若者の抱える問題が深刻化しているのも事実。対策は多岐に亘る分野が連携し総合的な対策を進め、家庭・学校・地域・企業・行政が協力する一体的な取り組みが必要。本年4月から『子ども・若者育成支援推進法』が施行されるので、支援計画の策定、情報提供拠点整備、協議会設置など適切に対応していく。」
- 建設部長答弁**「県下の中心市街地の人口割合は徐々に減少傾向。高齢化率も具体数字のある三市の例から、中心市街地で高い傾向がみられる。」
- 総務部長答弁**「固定資産税軽減による中心市街地の活性化は、広く住民一般の利益を増進するという公益上の理由がある場合には、市町村の判断により、税負担の軽減はできる。その際、公平性、対象資産、軽減期間の限定など、住民理解が得られるような十分な留意が必要。」
- 知事答弁**「コンパクトシティの理念は重要。高齢者福祉施設や居住人口増加策、空き店舗対策など各種支援事業により財政面などからも支援していく。」

■新任の寺島義幸議長、木下茂人副議長に早速、創志会として議会運営に関する要望書を提出しました。(議会改革への取り組み、議会運営に関すること、開かれた議会への取り組み、国への提言など)



諏訪地域ニュース

- 県道諏訪辰野線、小和田バイパス（四賀武津からヨットハーバーへ直線）が開通しました。(残りJAガソリンスタンド前から西友前555mが課題です)
- 諏訪地区中等懇談会から、「諏訪地域に中高一貫校を期待する」との答申が出されました。今後の世論の動向に注目しています。
- 元気づくり支援金の補助額が内定しました。(諏訪市関連は諏訪圏工業メッセ、武居城跡森林整備、北真志野区森林体験学習講座、志賀家住宅保存協力会など13事業)
- 豊田駐在所の交番化の建設費が予算計上され、年度内に完成予定です。
- 諏訪大社上社御神体山荒廃対策が完了しました。
- 商工部の「街なか創業塾設置モデル事業」に諏訪商工会議所の上諏訪駅前のオープンカフェと賑わい創出や担い手育成事業が採択されました。
- 諏訪湖健康学園は松本あさひ学園（建設費7億78百万円余を計上）として23年4月から松本に移転します。
- 夢の海の本体改修工事がはじまります（1億4千万円、H24年完成予定）
- 一昨年8月集中豪雨対策の4沢7基の堰堤工事がはじまります。(12億円) また、新川の先線1100mの工事も継続して進められることになりました。
- H18年豪雨災害に対する激甚災害対策特別緊急事業・天竜川河川災害復旧助成事業は22年度をもって完了します。(舟渡川、武井田・鴨池川水門、新川、諏訪湖など諏訪地域79億円)

3/25 県道諏訪辰野線小和田バイパス(湖岸・武津線)開通式

県政ニュース

- 国の補正に関連した基金積み立て等と人件費削減などにより一般会計253億85百万円余、特別会計15億78百万円余などの二月補正予算案の減額補正を可決しました。
- 24年度開催の大会準備の為、「技能五輪・アビリンピック室」が4月から設置されました。
- 諏訪市区は全県で一番一票の価値が小さい選挙区です。選挙区・定数研究会にて市町村合併や22年秋の国勢調査を視野に議論をしています。
- 医師確保対策事業5億1千万円余、看護職員修学資金貸与事業85百万円余、福祉人材確保対策事業費6億59百万円余など、医療、介護、福祉の人材確保を重視。
- 野生鳥獣被害対策関連事業費4億5千万円余を計上、しかし、国の補助が予測を大幅に下回りました(国へは増額要望活動中)。

《意見書をあげました》

- 永住外国人への地方参政権付与の法制化に慎重な対応を求める意見書
- 生産性が高く競争力に富んだ農家の育成を求める意見書
- 教員免許更新制の存続を求める意見書
- 子ども手当の財源の地方負担に反対する意見書
- 国として直接地方の声を聞く仕組みを保障し、予算に関して厳正な情報管理を求める意見書
- 政治資金規正法の改正に制裁強化を求める意見書
- 子官頸がん予防ワクチンの接種に対する助成を求める意見書

後援会新年総会・第11回県政報告会



大勢の方々にお集まりいただきました。皆様の声を聞かせていただき、ご期待に応えるべく一生懸命に働いてまいります。

役員一同心をひきしめ、新たな気持ちで頑張ります。

次回の第13回県政報告会は豊田総支部主催により7月19日(月/祝)を予定しています。6月20日(日)のゆかり懇親ゴルフ大会、6月27日(日)のゆかり懇親マレット大会も奮ってご参加ください。大勢のご参加をお待ちしております。